

司式: 鮎川健一
奏楽: 山田絵里

前奏: 「たえに麗しや、暁の星よ」(0. ブクステフーデ)

招詞: 65:19 わたしはエルサレムを喜びとし/わたしの民を楽しみとする。泣く声、叫ぶ声は、再びその中に響くことがない。(イザ 65:19)

讚美歌 368「新しい年を迎えて」

罪の告白・赦し

聖霊を求める祈り

朗読聖書①イザヤ書 63:15-19

- 15 どうか、天から見下ろし/輝かしく聖なる宮から御覧ください。どこにあるのですか/あなたの熱情と力強い御業は、あなたのたぎる思いと憐れみは/抑えられていて、わたしに示されません。
- 16 あなたはわたしたちの父です。アブラハムがわたしたちを見知らず/イスラエルがわたしたちを認めなくても/主よ、あなたはわたしたちの父です。「わたしたちの贖い主」これは永遠の昔からあなたの御名です。
- 17 なにゆえ主よ、あなたはわたしたちを/あなたの道から迷い出させ/わたしたちの心をかたくなにして/あなたを畏れないようにされるのですか。立ち帰ってください、あなたの僕たちのために/あなたの嗣業である部族のために。
- 18 あなたの聖なる民が/継ぐべき土地を持ったのはわずかの間です。間もなく敵はあなたの聖所を踏みにじりました。
- 19 あなたの統治を受けられなくなってから/あなたの御名で呼ばれない者となってから/わたしたちは久しい時を過ごしています。どうか、天を裂いて降ってください。御前に山々が揺れ動くように。

朗読聖書②マタイによる福音書 6:5-15

◆祈るときには

- 05 「祈るときにも、あなたがたは偽善者のようであってはならない。偽善者たちは、人に見てもらおうと、会堂や大通りの角に立って祈りたがる。はっきり言っておく。彼らは既に報いを受けている。
- 06 だから、あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。
- 07 また、あなたがたが祈るときは、異邦人のようにくどくどと述べてはならない。異邦人は、言葉数が多ければ、聞き入れられると思ひ込んでいる。
- 08 彼らのまねをしてはならない。あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ。
- 09 「天におられるわたしたちの父よ、/御名が崇められますように。
- 10 御国が来ますように。御心が行われますように、/天におけるように地の上にも。
- 11 わたしたちに必要な糧を今日与えてください。
- 12 わたしたちの負い目を赦してください、/わたしたちも自分に負い目のある人を/赦しましたように。
- 13 わたしたちを誘惑に遭わせず、/悪い者から救ってください。』
- 14 もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。
- 15 しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない。』

天地万物を造られ、御支配為さる父なる御神さま。聖名を褒め称え賛美致します。降誕節・クリスマスを迎え、新しい主の年、2025年を迎えました。あなたが造られた世界は、人の謀を遥かに超えて今に至ります。その中で私たちは、永遠の命なる主によって与えられた新たな命により、創り主なる父、救い主なる御子イエス、助け主なる御霊・聖霊の三一なる神に招かれ、新たな年の歩みを始める志と共に、真理の道に導かれていることを感謝致します。なお、この恵みの時、主の真理によって信ずる者を聖別し、与えられた使命に応え得るよう支え導いてください。

過ぐる年、近きにある1週間、主なる神は、御心によって私たちを祝福の内に必要な物を備えてくださいました。しかし、過ぎた日々、罪にある拭いされない中で主の御心から遠くあったことを、また消えざる弱さを自覚し、悔い改めを申し上げます。どうか主の御赦しの内にありますように。

新年を迎えた最中に、心身共に心憂う中にある現実がありますが、どうか主の御心の内に世界がありますように。教会はその中でライブ配信も続けられ、時を同じくして、共に礼拝を献げ、御言葉の恵みに与るこの時、真の神の御光の内に歩む者とされますよう、御霊の導きと御助けを願います。

私たちはあなたの御力、聖霊の力をなくしては前に進めません。聖霊なる神の息吹により、私たちは新たに生きる力、生きる希望へと導かれ聖められます。御子イエスの命と共にある聖霊の力により、信仰共同体は生まれ、神の御言葉により育まれ、救いの希望を伝えます。多くの課題に直面しても主なる神にゆえようと志を新たにす私たちです。

主の御力により頼みつつ、世界の平和、また日本の平和の為にも祈ります。世界中の人々が労苦を重ね、新たな年にあっても、不安や悲しみが募ります。主の慰めと癒しを願い、どうか一日も早く混乱が収まり、共に主を見上げ、主にある平和の道を歩めますように。

世界を統べ治めたもう主よ、あなたはこの世に、見えるも見えざるも、主の教会を造られ、真理の道を備えてくださいました。信濃町教会は宣教101年目を迎え、年の初め、尊い祈りの場に召し集められ、主の幹に連なる肢にある恵みに感謝致します。主の年、2025年の新たな年も、教会の為すべき業には多くの務めがあります。どうか為し得る業を一人ひとり、与えられた賜物を用いられながら共に信仰を深め、共に歩む者とならせてください。

御言葉を取り次ぐ牧者を導いてください。聴く私たちの心に深く届き、新たな命と共に、ここから遣わされていきますように。

“マラナ・タ(Μαρινα θα. [主よ、来たりませ])”と祈り願い、“主の御国が来ますように”と、主の平和を求める世界の教会、信仰の友の祈りに合わせ、尊き主イエス・キリストの聖名によって御前に御献げ致します。アーメン。

長老(神藤重臣) 任職式

讚美歌 492「み神をたたえる心こそは」

2025年、最初の礼拝に与えられました聖書箇所は『主の祈り』です。私たちが毎週の礼拝で共に祈っています『主の祈り』は、今日朗読された聖書のキリストの言葉が元になっています。教会創立101年目の新年礼拝にこの個所が与えられましたことは意義深いことだと思います。『主の祈り』は聖書に記された福音の全体を最も簡潔に表したものの、「福音の要約だ」と言われています。今日の礼拝から何回かにわたって『主の祈り』を取り上げます。

おそらく、どのような宗教にも「祈り」というものがあると思います。今は丁度お正月ですから、大勢の人が神社仏閣などに行かれて祈られていることでしょう。しかし、「いったい誰に向かって祈っているのでしょうか?」「その祈りをいったい誰が聞いているのでしょうか?」。おそらく多くの人は自分が祈っている対象については関心がないように思います。そこに祀られている神仏の名前くらいは知っていても自分とどのような関係があるのか、まったく意識されていないのではないのでしょうか。

キリストは弟子たちに、祈る時は「天におられる私たちの父よ!」と呼びかけなさいと言われました。「神を父と呼び、あなたは神の子として祈りなさい」と言うのであります。「あなたがたは神の父よ!」と呼びかけていいと言ってくれるのです。

しかし、「神を父として祈るためには、必要な備え、準備があると」言われます。具体的には祈る時にしてはいけないことがあるのです。キリストは「祈るときにも、あなた方は偽善者のようであってはならない」と言われています。「偽善者」と訳されています言葉(ヒコクリテース ὑποκριτής)は、「俳優」とも訳せる言葉で、「見せかけの行為をする人」を意味します。キリストから「偽善者」と言われる彼らは、「人に見てもらおうと、会堂や大通りの角に立って祈りたがる」とあります。神に聞いていただくのではなく、人に聞かせるための祈り、自分の信仰深さを見せびらかす祈りが横行していたようです。ここでキリストは、彼らが人に見てもらおうとしていることを問題にされています。つまり、祈るにしても、どのような善い行いをするにしても、心が大切なのです。私たちの父なる神は、私たちが何をしたら、外に現れた行為をご覧になるのではなく、私たちの心をご覧になっておられるからです。

信仰生活には多くの誘惑があります。信仰者に入り込んでくる誘惑というのは、自分のしている行いを見せびらかし自慢しようとする。「神のため、教会のため、兄弟姉妹のために」と言いながら、自分の働きを周囲の人たちに知らせて「偉いですね、立派ですね」と褒めて欲しい、あるいは「ありがとう」と感謝されたいと思う心、これが誘惑です。しかしそれでは「ただの取引だ」と、キリストは言われています。「はっきり言っておく。彼らは既に報いを受けている。」と言われる通りです。「報い」というのは「ミストース(μισθός)」というギリシャ語で、「労働の対価として支払われる報酬」という意味の言葉です。「偽善者」と言われる人たちは日に何度も熱心に祈ることで、人から褒められることを願っている。それは良いものを売って良い値段で買ってもらうことと同じように、商売をしているのだ」というのです。「あなたの祈りは神に献げられたものではなく、人に褒められることを目的にしている。あなたの祈りは自分の欲求を満たしたいだけで神から離れてしまっている。」と言われているのであります。祈る時には十分な注意が必要なのです。一時的な報酬を得て永遠の報酬を失う人にならないように私たちは気をつけなければなりません。人前で祈るとき、自分は良い事をしている、神に仕えているという意識が入り込んできます。自分は他の人よりも優れているという自意識のようなものが興ってくるのです。人前で祈ることのできる人は、祈

れない人に対して、「あなたはキリスト者として相応しくない、努力が足りない」と言い出します。もし、教会でそのようなことを言う人がいれば、多くの人が教会から離れて行ってしまうことになるでしょう。

ではキリストが弟子たちに、私たちに求められる祈りの姿勢とはどのようなものでしょうか。キリストは言われます。「あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。」このキリストの言葉は場所のことを言っているではありません。キリストが言われていることは、「人に祈りを聞いてもらおう、祈っている姿を見てもらおう」とするのではなく、「あなたが祈るとき、一人きりになれ」と言われているのです。一人きりになった時、神と私との深い交わりが生み出されるからです。けれども、誰にでも祈れなくなる時があります。教会の優れた指導者であっても、絶えず祈る生活をしている人であったとしても、「どう祈っていいかわからない」ことや分からないときはあるものです。祈ろうとしても言葉にならない、呻くことしか出来ないときもあります。しかし、言葉にはできなくても、声には出せなくても、神と向き合っているなら、その時、私たちは祈っているのであります。キリストは「隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる」と言ってくれています。私たちの神は心を見るからです。今、あなたが神を見ているのか、人を見ているのか、神は私たちのすべてを知っておられます。

キリストは7節でもう一つ、「異邦人のようにくどくどと述べてはならない」と忠告をされています。長い祈りをするほど内容が豊かになると考えることをキリストの弟子は避けなければなりません。私たちは「くどくど」と祈り、神がされようとされていることに口出しをして、自分の望みを神に押し付けてはいないでしょうか。「くどくど」祈ることは、父なる神を信頼していないことになるのです。神を見ず、自分を見ているから、「くどくど」祈るということが起こるのです。『コヘレトの言葉』5章1節に「焦って口を開き、心せいで神の前に言葉を出そうとするな。神は天にいまし、あなたは地上にいる。言葉数を少なくせよ。」と書かれてある通りです。

“くどくど述べるな”というキリストの言葉は、祈りの言葉を聞く側への忠告でもあります。キリスト者は少ない言葉数にも多くの祈りが込められていることを聞き取る者でなければなりません。しかし、「どのように祈ればいいかわからない」ということは、多くの人の悩みだと思います。『祈り』とは、私たちが天におられる父なる神と繋がることです。「父よ!」と呼びかけて、その結びつきを確信することなのです。繰り返しますが、神は私たちのすべてを知っておられます。自分ではまだ気づいてないことも知っておられるのです。

8節にあります「あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ」、この言葉が大切です。私たちは本当に自分に必要な物を知っているでしょうか。この私に、今、何が必要か、分かっているでしょうか。今、私たちに必要な物が『病』であるかもしれません。『困り果てること』であるかもしれません。『疑いや迷いの中にとどまること』かもしれません。そのことを私たちは前もって知ることができません。けれども真の必要を、この私に今必要なものを神だけが知っておられます。祈る時、私たちは、自分を私以上に知っておられる方と話をしているのです。

“すべて知っておられるなら、なぜ祈る必要があるのか”と思われるかもしれませんが。私たちは礼拝で祈り、それぞれの集会で祈り、場合によっては日に何度も祈ります。今日の礼拝で執り行われた長老任職式でも新しく選り出さ

れた長老に、“朝夕恵みの座に就いて祈ってください”とお勧めをしました。なぜ祈るのでしょうか。

私たちが祈るのは、私のため、私に必要なから祈るではありません。私たちの父が、私たちと繋がりを、私たちとの交わりを求めておられるから祈るのです。祈ることは、神と人格的な交わりを持つことであります。人格的交わりというのは、具体的に言えば、“キリストの弟子となって生きる”ということです。キリストと弟子たちは、共に荒れ野を旅して、同じように空腹に苦しみ、喉がカラカラになったこともあったでしょう。共にパンと水を分け合い、共に笑い、共に泣いた。そして時には、厳しく叱られることもありました。人格的な交わりとは、“いつも傍にキリストがいてくださる、キリストの存在を常に感じて生きる”ということです。今もキリストは、私たちと共に生きておられます。

人格的な交わりに欠かせないものは『言葉』であります。人に見てもらおうとする祈りは必要ありません。「くどくどと述べる」ことも必要ありません。必ずしも声に出す必要もありません。しかし、どのような親密な関係であったとしても、『言葉』が不要になるということはないのです。“言葉は神と共にあり、言葉は肉となって私たちの間に宿られた(ヨハ1:1,14)”のです。ですから、私たちは『言葉』において神に答える必要があります。しかし、私たちは祈る時、“自慢したい、褒められたい”という誘惑に陥ります。祈りの言葉で人を傷つけることもあります。祈れない時もあります。その時は『主の祈り』を祈ればいいのです。キリストは、「だから、こう祈りなさい。」と命じられています。

『主の祈り』の最初の言葉は「父よ」です。原文では“父よ、私たちの天におられる(πατερ ἡμῶν ὁ ἐν τοῖς οὐρανοῖς,)”、この順番で書かれています。神から離れたことを悔い改め、“イエスは主なり”と告白した者、つまり、キリストに結ばれた者は、神を“父よ!”と呼ぶことができます。私たちにとって祈りは父と子の交わりです。

預言者イザヤも今日の箇所を繰り返して、「あなたはわたしたちの父です。」と呼びかけています。【16 節、二回繰り返される「(まことに)あなたはわたしたちの父です」(キー・アッター・ア・ヴィーヌー)יְיָ אֱלֹהֵינוּ】そして19 節の「どうか、天を裂いて降ってください。」という言葉は、キリストの洗礼の場面を私たちに思い起こさせます。【マタイによる福音書】の3 章13 節以下で、キリストがバプテスマのヨハネから洗礼を受けられた時、天がイエスに向かって開いた。その時、神の霊が鳩のようにキリストの上に降りました。そして、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」との声が天から地上に響き渡りました。私たちが「わたしの愛する子」とされたキリストに結ばれるために、洗礼を受けて、洗礼によって、キリストと共に葬られ、復活によって新しい命に生きる者とされた神の子であります。神の霊によって導かれ生かされています。この聖霊の働きによって、“私たちの父よ”と呼ぶことができます。

“私たちの父よ”というのは、“今日ここに集められた私たちの”という意味もありますが、その前に、“キリストと私の”という意味が込められています。祈る時、私たちはキリストに繋がっているということです。キリストは私たちの手を取り、肩を抱いて、“さあ、父を呼ぼう”と言ってくださっています。“あなたもわたしの父の子だ”と、“わたしにおいて、あなたも父と繋がっている。あなたももうわたしの兄弟だ。”

『主の祈り』は招きの言葉です。キリストが、“だからこう祈りなさい”と言われたのは、“父なる神の元に来なさい”という招きであります。私たちはキリストと共に、『主の祈り』を祈る時、今も生きておられる父との交わりを経験す

ることができます。“命を一つにしている”ということの意味を味わいます。この経験は、キリストを通して以外、味わうことはできません。“キリストを救い主”と告白し、キリストの弟子となった私たちと父との間にだけあることです。父と子と聖霊による交わりなのです。信仰を告白し、キリストと結ばれた者が、『主の祈り』を祈る時、もう既に、キリストと共に生きているのです。

『主の祈り』を祈る私たちは、キリストの言葉に従っています。必要なことはキリストに信頼することです。信頼の中で祈り、父なる神との命の交わりを持つことが私たちの信仰生活です。キリストの招きに応え、御言葉に従って神に“父よ”と呼びかけながら新しい年を共に歩んで参りましょう。

お祈りを致します。

天におられる私たちの父よ。私たちがあなたの子であることの幸いを感謝致します。あなたの計り知れない愛と憐れみと慈しみと、また、希望の内に、新しい年を愛する家族とともに礼拝することから始められました。

主よ、どうぞ、この年も私たちを御言葉の中に生き続ける者とさせてください。あなたの命の交わりに生きる者とさせてください。あなたの御心が、この地に実現しますように。キリストの平和が実現しますように。

主の聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:495「しずけき祈りの」

聖晩餐 ニカイア・コンスタンティノポリス信条の告白 和解の挨拶

讃美歌:79「みまえにわれらつどい」

献金・感謝(橋本義武)・主の祈り(讃美歌21 93-5A)

父なる神さま、聖名を賛美致します。一年の最初のこの礼拝に、私たちを呼び集めてくださり、御言葉を戴くことができ、心より感謝致します。

今日はまた長老の任職式がありました。どうか教会の歩み、夫々の御業に仕える一人ひとりの奉仕の歩みをあなたが御心に適ったものと為して下さいますように。

今日の御言葉を感謝致します。あなたに対し心を閉ざし、また祈ることを忘れてしまうような時にも、どうか、私たちをもう一度、祈る者へと変えてくださり、あなたに繋がる者として歩むことを与えてくださいますように。

ここに献げました物を、聖めて、あなたの御用のためにお使いください。

あなたから与えられました『主の祈り』を共に祈り、この1 週間の歩みを始めさせてください。「主の祈り」…アーメン。

派遣:讃美歌91「神の恵みゆたかに受け」

派遣と祝福 司式:主は言われます。「私は誰を遣わすべきか。 会衆:私がここにおります。私を、お遣わし下さい。司式:「父が私をお遣わしになったように、私もあなた方を遣わす」と主は言われる。キリストの平和の使者として行きなさい。>

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたが一同と共にあるように。アーメン。

報告:週報の修正(1)本日の集会「100周年記念事業リーダー会」を削除。(2)北支区新年礼拝、「zoomも併用」を削除、対面のみとする。

後奏:「たえに麗しや、暁の星よ」(D. ブクステフーデ)